

かわねべ

発行 河辺村公民館
編集 編集委員会
電話(河辺)5番
印刷所 尾上印刷所

昭和四十六年を迎えて

村長 稲田三温



新年明けましておめでとうございます。心あちまなる年頭に当り、一言御挨拶申し上げます。七〇年代の幕明けともいわれ、国民の期待と関心を持った昭和四十五年を顧みますと、数多くの話題をまいてまいりました。万国博で明け、沖縄問題で暮れたその内には、とつじよとして日す。



成人式おめでとう 成人者 31名

- 大成 西山増男
植松 大野勇吉、植木春子、北川
三久保 清水弘、松本房子
横山 大野明繁、高田貴臣、久保
美智栄、露口光春
川崎 小川勇、岩井
徹夫、岡本しず子
城戸知恵子
百谷谷 河野カツミ
大森裕美
川上 水本美代子
稲谷 酒井美枝子
真田美須弥
寺殿 武田房子
熊の坂 松本千津恵
名場連 池田康宏
坂本 岡林明仁
竹の瀬 矢野永子
帯江 山本隆則
横通 松田さえみ、山本俊雄
神納 山田晴夫
天神 富永政徳、山本富美子
男子十五名 計三十一名
女子十六名

河辺村勢

Table with population statistics for various age groups and genders.

ごあいさつ 館長 古梅貞道

明けましておめでとうございます。昨年は一九七〇年代激動の年と言われ、経済成長、平和と繁栄、進歩と調和、昭和元禄等々幸福にみちあふれた文字や言葉が流行いたしました。その反面には暗い悲しい社会問題も外に出てまいりました。公害、交通事故、暴力殺人、火災心中等史上最悪の結果が生じ、社会生活のなかにい

この繁栄が本当に国民全体の繁栄であるか？として今日の繁栄が国民の生活と将来を約束してくれるか大きな課題があると考へます。河辺村に住む私達住民の生活のなかにも、いろいろの問題があります。たとえば「今後の農業経営はどうすればよいか」「林業は将来どうなるか」「家を継ぐべき若者が都会へ流れて、老人と子供が残されてゆく、家に残って貰う若者は嫁がなくなり、更に毎年増加する出生者と留守家庭の問題、子どもの教育の問題等、私達の身近な問題で考えなければならぬことが多くあります。住民の生活が安定し、若人が明日への希望を抱いて安心して活動でき、家族全員が揃って生活ができる郷土づくりの方法はないものでしょうか。



二十才に思う 久保美智栄

ことを成人の日を迎えた今日、痛切に感じずにはおられません。河辺村の成人式に出席して、村長さんをはじめ、来賓の方々の温かい励ましの言葉が祝福されたとき、私はこれからの自分は大人であり、一社会人であることの実感と責任をひしひと感じました。明日をみつめ、今日という日を忠実に生きるものにとつて、不安という言葉はありません。社会人として、みずから手で社会人としての自覚をもち、みずからの手で実行し責任をもつ、そんな人間に私はなりたいものです。

栄養教室

- 第一群 乳卵 二五〇g
第二群 魚肉、豆類 二〇〇g
第三群 野菜、いも類、くだも 五〇〇g
第四群 穀類、砂糖、油脂 四〇〇g

バランスのとれた献立

これを食生活によって健康をささぐ四本の柱といわれています。第一群の牛乳、卵の食品を一人に愛情をこめた献立を作りあげて下さい。

やねばし

行く年、来る年、送る心、迎える心、毎年のことながら複雑な感情である。それは人それぞれに感じ、感じ方がちがう。新年なんて、明日が今日になっただけと考えれば別に意味はないが、しかし静寂な気分を除夜の鐘をききつつ、行く年を反省し、来る年の幸を祈る心は、日本民族の心のうち、長い長い伝統に育られた美しさのように思われる。

「完成」とは何だろうか。この場合それは「全知全能の神仏」を意味すると考へる。それは人類永遠の平和と幸福への道だと考へられる「神仏」と言えば、新春三日間の初参り客は四百三十七万人で日本人の二八人に一人が神社仏閣にお参りしたことになる。まさに民俗土着の神仏信仰の根強さを現わしている。特に若い男女の参拝数が多くなつたことは何を意味するだろうか。たつたことは何を意味するだろうか。神前、仏前に礼拝する姿は身共に清浄でけいけんである。空虛と不安をまきらす心のよりどころを祈りに求める人も多にちがいない。七十年をふり返ってみると、自然に祈らずにはいられないような暗い年でもあった。火災による焼死者千五百五十九人、交通事故による死者九十九万四千二百四十七人これだけを考へても祈りたくなるではないか。人間は常に未来に希望を求めて生きようとする。その未来が現在となり、過去となる。永遠に続く時の流れの中に、人間の生命は余りにもはかない。「自然」とは何だろうか。「生命」とは何だろうか。「神秘と無限」にちようせんする人間の英知が将来「完成」に近づくよう本年もまた祈りから出発したいものである。

